



陰陽五行論塾Contents

三業干支

三業干支(さんごうかんし)

- 三代にわたって作った干支。
前世の業(=因縁)を引きずっている。
- 場所によって現象の現れ方が異なる。

③	②	①
○	○	○
○	○	○

- ① 年干支はあまり現象が出ない
- ② 月干支は年を取るにつれて
じわじわ現象が出てくる
- ③ 日干支は強く、すぐに現象が表れる

- 業を通り過ぎると(業の現象が表れると)
その後、運勢が上がる。
 - 例えば乙巳であれば、人から騙されるという
業があり、実際に人から騙される体験をすると
運勢が一挙に上がっていく。

三業干支(さんごうかんし)

- 業を持っている人には、共通の資質があり
目に見えないものを直感的に見抜く力が
出てくる(霊力がある)。
- 六十干支中、各干に二つずつ該当するものがある。

干	①	②	業の名称
甲	甲子	甲辰	不族(ふぞく)の業
乙	乙巳	乙酉	祇王(ぎおう)の業
丙	丙戌	丙辰	不信(ふしん)の業
丁	丁未	丁丑	徳攻(とくこう)の業
戊	戊戌	戊辰	参籠(さんろう)の業
己	己巳	己酉	倒柱(とうちゅう)の業
庚	庚戌	庚辰	傷体(しょうたい)の業
辛	辛未	辛丑	一人業(ひとりごう)の業
壬	壬子	壬辰	不子(ふし)の業
癸	癸亥	癸酉	倒異(とうい)の業

①と②では業の稼働が
始まる時期に違いがある。

- ①生まれてすぐに稼働
- ②中頃(45歳ごろ)から稼働

不族(ふぞく)の業

- ①甲子、②甲辰
- 婚姻関係に欠陥を生じ、人生で波乱・動乱が多い。
- 結婚してから、その現象が出る。
- 正常な結婚生活の場合、子供ができないか女の子ができやすい。
- 悠久家系(長く続いている家)の最後(家系が自分の代で終わり、途絶える)。
- 平凡な家系に生まれた場合は、子供の夭折(40才までの死)、突然死、親の突然死。
- 集団の中に長く居れない現象が不族の業。

祇王(ぎおう)の業

- ①乙巳、②乙酉
- 性格が素直すぎて、他人に欺されやすい。
- 正反対の結婚観で、数婚になりやすい。
- 婚姻関係に問題が生じる業。
- 結婚して深刻な問題を乗り越えたと、一度の結婚で安定する。
- 晩年は業が消えて、苦労は無く平穏な人生となる。
- 女性は晩婚で吉。

不信(ふしん)の業

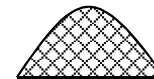
- ①丙戌、②丙辰
- 人生で最も大切なときに、他人から裏切られる(両親を含む)。
- 裏切られた都度、心が強まり、強運に恵まれる。
- 他人を信じられず、孤独の森の中で不信感が一生続く。
- 執着を捨てて、無我の境地で前進すること。

徳攻(とっこう)の業

- ①丁未、②丁丑
- 先祖の徳が強すぎ、徳が攻めてきて(人が寄って来て)慇懃無礼(いんぎんぶれい)※に感じる。
 - ※ 慇懃無礼とは、表面は丁寧で礼儀正しいように見えるが、実は尊大で無礼なこと。または、その様。
- 周圀から好感を持たれ、大勢に担がれて運を上げるが、心に虚しさが残る。
- 男性の場合、女性の情に弱い。
- 人生の後半で別宅を所有(特に日干にある場合)。→愛人を持ってしまう。

参籠(さんろう)の業

参籠のイメージ



竹かごのようなもの

- ①戊戌、②戊辰
- 参籠=祈願の為、神社や寺院等に、ある期間籠もる事。
- 人生を平凡に過ごすと、運気は限りなく下がる(天才的な人)。
- 周囲に理解者は無く、孤独の囚人。配偶者が離婚しない。家から出れない。自由が無い人生。
- 心身ともに何かに捉われ身動きが出来ず、努力が周囲から理解され難い傾向が出る。
- 男性は50代、女性は40代で精神異常になる確率が高い。
- 20代で一度、その傾向が出る。特に戊戌が精神病を成り易い。

※ 母親の育て方によって発病するかどうかが決まる

母親が思った事と言っている事が違うなど、矛盾を抱えている場合
子供は直感的にそれが分かり、どうして良いか分らず、発病しやすい。

倒柱(とうちゅう)の業

- ①己巳、②己酉
- 単子(一人っ子)が多く、男女を問わず、運が強い。
- 無欲が特色で、出世欲がなく、人生を淡々と過ごすと吉。
- 親の代は富貴。それを継承すると本人は苦しい。
- 実家を破産、大黒柱を倒すと本人は伸びる。

傷体(しょうたい)の業

- ①庚戌、②庚辰
- 人生を平凡に過ごす、運気は限りなく下がる。
- いじめ、大怪我、障害、荒行等で、身体に傷が残ってしまう時に運が伸びる。
- 自殺未遂で運が伸びる(先祖に事故死または自殺者がいる)。

一人業(ひとりごう)の業

- ①辛未、②辛丑
- 未婚、独身で財運を得て、結婚すると崩壊する。
- 家系の恩恵大で、成功は財(禄分)で名誉(官分)は無し。
- 男性は結婚に失敗しやすく、数回の結婚暦で運氣(財運)上昇。
- 女性は夫との離別か夫の死後、一気に運(財運)が上昇するが、再婚すると運氣が下がる。
- 辛丑の方が年齢と共に業の力が強くなる。
- 辛未は速攻で鮮明に現れる。
- 全部自分一人でやってしまわなければならない業。

改良 社長は北の部屋に入る、もしくは、北の席に座る事で改良できる。

※北方=支配者の場所

不子(ふし)の業

- ①壬子、②壬辰
- 逆縁(子供が先に死ぬ、夫婦の年齢差)、自分と縦線の直系が途絶えて、孤独になる。
- 兄弟姉妹は残るが、子供の事故死、瞬間死の可能性大。
- 子供との縁が薄く、自分の思い通りにならない子供が生まれる傾向にある。

倒異(とうい)の業

- ①癸亥、②癸酉
- 自分と異質なものを倒す、業の中でも特に厄介な業とされている。
- 本人が男性の場合、息子の嫁を倒すか、嫁の逃亡、死亡、事故死を引き起こす。
- 本人が女性の場合、息子の嫁を追い出してしまいが、男性程は強く出ない。
- 本人が社長の場合、社員の妻の病死、事故死、禍が発生。
- 外から来た異性を倒す業。
- 自分自身の家庭運は良いが、子供の結婚相手などに不運が生じやすい。